



愛知県 株式会社 琥珀観光
「障がい者施設に対する継続的な支援活動」事業



株式会社 琥珀観光
代表取締役社長
河本三紀夫さん

運営基盤の脆弱な施設を
息の長い支援活動で支える

社会福祉施設に継続的な資金・物品支援

「去る12月21日には、年末のお忙しいなか、心温まるプレゼントの寄贈をいただき誠にありがとうございました。今年の『おたのしみ会』でも、仲間みんなにお菓子セットのプレゼントをしていただき、ありがとうございました。サンタさんやマリアちゃんの手からプレゼントを受け取った時の仲間は本当に嬉しそうな笑顔をしていました。また、琥珀観光様から今回もいただいた布巾の注文は、仲間の給料とボーナスの財源の大きな支えとなりました……」

これは愛知県内にある社会福祉法人が営む作業所の所長から、琥珀観光の河本三紀夫社長宛てに送られたお礼状の一部を抜粋したものである。名古屋市や豊川市などでホールを展開する琥珀観光では、社会貢献活動の一環として、1992年に愛知県内にある3つの社会福祉施設に資金や物品などを贈る支援を開始した。

ほとんどの障がい者施設は少ない予算での運営を余儀なくされており、入所者や通所者にとっては決して恵まれた状況とはいえない。その環境を少しでもよいものにしていくことは、ノーマライゼーションの観点からも必要不可欠なことだと思われる。それを21年前から地道に継続しているのが、琥珀観光の取り組みである。その継続性と社会奉仕性が高く評価され、これまで愛知県知事、愛知



この活動は2002年ごろから始め、これまで参加した従業員は130名以上になる



県厚生事業団などから感謝状や礼状を受けとっている。その一例が、冒頭に掲げた礼状だが、琥珀観光の事業の意義は、この文面に端的に表現されている。

当初は3施設への運営支援として始まった事業だが、現在では、一宮市内2施設、稲沢市内1施設、豊川市内1施設、新城市内1施設、名古屋市内1施設の合計6施設と支援先が広がっている。支援としては資金支援のほか、デジタルカメラ、磁気加振式温熱治療器、タオル全自動高圧蒸気滅菌機など物資支援も行ってきた。昨年は現金合計80万円を各施設に寄付したほか、ポータブルエルゴメーター、ライフケアテーブルなどを寄贈した。

自社ホールのない地域の施設にも支援拡大

この支援事業に加え、3つの施設に対して毎年、従業員4名ほどがサンタクロースに扮したり、人気キャラクターの着ぐるみを着たりして、プレゼントを持参してクリスマス会に参加し、入所者との交流を続けている。これは施設の入所者や通所者に、楽しく、幸せなひとときを過ごして

もらいたいという願いから2002年ごろに始めたもので、従業員はすべてボランティアで参加しており、これまでに参加した人員は、のべ130名以上になるという。また、年末には施設で作ったクッキーを購入したり、冒頭のお礼状にあるように布巾を注文したりすることを通じて就労の機会を提供している。

こうした活動は施設のある各市の社会福祉協議会と連携して行われているが、これまでの支援総額は合計約2362万円になるという。特筆すべきは、この事業が、琥珀観光のホールがない地域にまで拡大して行われていることで、地域性の強い活動が一般的な組合員ホールにあつて、1つのモデルとして評価されている。

厳しい予算のなかで活動を続けざるをえない各社会福祉施設にとっては、琥珀観光の資金・物品支援は心強い味方となっており、今後の活動の継続が強く望まれている。その期待に応えるべく、琥珀観光では社会貢献に対する従業員の意識を高め、息の長い活動を続けていくことにしている。



従業員がサンタクロースに扮してプレゼントを持参



毎年、訪問して入所者と交流を深めている